

ICT を効果的に活用した授業づくり

県立船橋特別支援学校教諭 なかい たけし 中井 猛

1 はじめに

本校は、小学部のみので肢体不自由児教育を行う特別支援学校である。令和元年度、2年度に県教育委員会から研究指定を受け、「ICT を効果的に活用した授業づくり～一人一人に応じた主体的・対話的な学びの深化を目指して～」をテーマに実践研究を行った。

2 本校の実践について

本校児童の主体的・対話的で深い学びを次の三つに整理し、ICTを活用した授業づくりを通して検証した。「自分で選んだり、自分の考えを表現したりして、自分から活動に参加すること」「友達や先生と一緒に考えて、考えを深めること」「深まった考えを、次の活動や別の活動に発展させること」である。具体的実践は次のとおりである。

- 本校ホームページやQRコードを活用した長期休業中の学習支援

自宅学習 プリント（5月25日）

担任 岩井先生 田辺先生 より

みなさん、体調はいかがですか。もうそろそろ学校が始まりますね。

みなさんに会えるのを楽しみにしています。

少しずつ、動画を見ながら学習も進めてみてください。

	動画	ワークシート	フォーム
○算数④			
○理科④		「学校 HP」→「5年」 →「5年1組」の ページから、 ダウンロードできます。	

- 音声入力アプリを活用したプログラミング教育
- iPadやタブレット端末のアプリやBTスピーカーの活用
- パソコン、プロジェクターの活用

- スイッチ教材、iPad タッチャーの活用
- 拡大鏡、UDブラウザの活用



※エアトランポリン遊びで、イメージ画像を天井に映し、視覚的にも楽しめるようにした。

3 成果と課題

(1)成果

- 日頃から繰り返しICT機器の操作をしたり、興味関心のある題材をICT機器と関連させたりすることで自分から意欲的に学習できた。（主体性）
- ICT機器を使って課題解決のために、友達や教師と話し合ったり、ICT機器を使った遊びを一緒に行ったりすることで、共同で考え、新たな考えを知ったり、活動が分かりやすくなったりした。（共同）
- ICT機器を使うことで、児童が別の活動に興味をもったり、日常生活の中でできることが増えたりするなど、活動が広がった。（発展）

(2)課題

- 児童一人一人に合ったICT機器を引き続き使用していくとともに、児童が自分から取り組める手立てを講じ、児童の主体的な活動を支援していくこと。（主体性）